



げんきプラザを 活用してみませんか？

学校における体験活動の充実



体験活動の有用性と学習指導要領での位置づけ

体験活動については、様々な調査結果から次の有用性が明らかになっています。

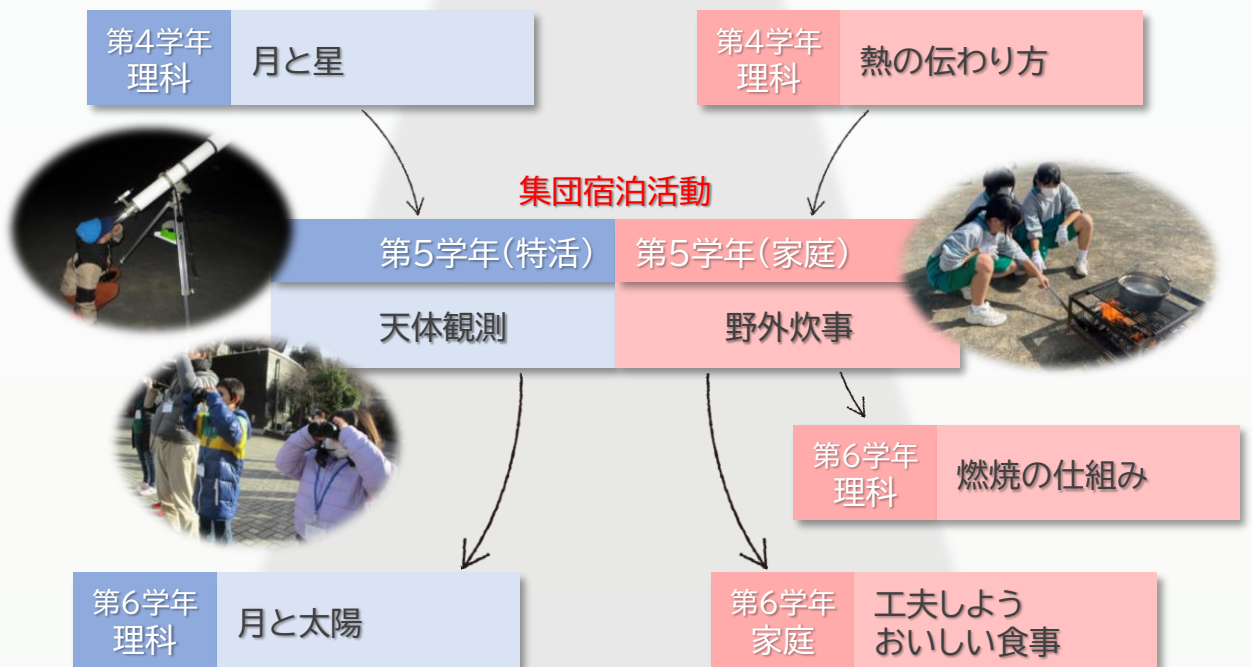
- ①自然体験や生活体験が「主体的な学び」の基礎となる「自己肯定感」を高める。
- ②集団での活動が「よりよい人間関係を形成」し、「対話的な学び」ができる学級づくりにつながる。
- ③実感を伴った理解は「深い学び」につながる。

また、学習指導要領では、自然や文化に触れる体験を通して学校における学習活動を充実させることや、校外における集団活動を通して人間関係を深めることなど、体験活動が重視されています。

体験活動を取り入れたカリキュラム・マネジメント

豊かな自然環境を有するげんきプラザで、学校での学習を生かし、体験活動と結びつけることで、実践的で探究的な学習活動になり、よりよい暮らしや持続可能な社会を創造する態度の育成につながります。ここで紹介するプログラムは、**学校での事前学習からげんきプラザでの体験活動までが、一連の流れとしてまとめたもの**で、「主体的・対話的で深い学び」につなげた授業展開の例として、各教科等で身に付ける「資質・能力」をさらに高めることにもつながります。

「主体的・対話的で深い学び」につながる体験活動と授業の実現のためには、「カリキュラム・マネジメント」が不可欠です。具体的には、各教科等で育成をめざす資質・能力を明確にし、それを育む上で効果的な学習内容や活動を、教科等横断的な視点と体験活動で組み立てることが重要です。



学習指導要領では、教科等や総合的な学習の時間などの学習活動を含む計画を立て、授業時数に含めて扱うなど、柔軟な年間指導計画の作成について工夫するよう配慮するとされています。授業時数に含む場合、例えば、「**野外炊事**」を「調理をするから家庭」といった安易な位置付けではなく、教科等の目標や内容を踏まえ、集団宿泊活動で実施することで効果が高まるような計画にすることが必要であると指摘しています。

「**野外炊事**」を例にすると理科の第4学年の「物質・エネルギー」の「**熱の伝わり方**」や第6学年「物質・エネルギー」の「**燃焼の仕組み**」と関連付けられます。しかし、集団宿泊活動を第5学年で実施した場合、「**野外炊事**」を第4学年や第6学年の授業時数に含むことはありません。とはいえ、「**野外炊事**」を行う際、**第4学年で学習した「熱の伝わり方」を想起**させることや、**第6学年で学習する「燃焼の仕組み」につなげる**ために意識付けをすることはできます。

集団宿泊活動と特別活動の各活動・他の学校行事との関連

集団宿泊活動の目標や約束、必要な係を決める話し合いを、「学級活動(1)学級や学校における生活づくりへの参画」と関連付けることや、集団宿泊活動で登山を行う際に、清掃活動を併せて行い「勤労生産・奉仕的行事」を統合して行うこと、集団宿泊活動の成果発表会を「児童会/生徒会活動」と関連付けることなど、集団宿泊活動を特別活動の各活動及び学校行事の各内容と関連させることが考えられます。



集団宿泊活動を年間指導計画に適切に位置付けるためのステップ

Step 1

集団宿泊活動で行う各活動を教科等に関連付けて年間指導計画を作成

集団宿泊活動で育てる資質・能力を教科等横断的な視点で設定し、事前学習及び事後学習を含め年間指導計画を作成することが大切です。

Step 2

集団宿泊活動実施計画の作成

集団宿泊活動の実施計画を作成するとともに、県立げんきプラザの活動プログラムや指導体制等を確認し、活用することが重要です。

Step 3

各教科等の実施案の作成

各教科等に関連付けた各活動の実施案(学習指導案)を作成し、事前・事後の学校での授業と一体となった計画を作成することが効果的です。



memo 「出前授業」を活用した体験活動

学校へげんきプラザの職員が出向き、学びを深める体験活動を展開する「出前授業」による実施が可能です。

事前に先生方と打ち合わせを重ね、体験活動当日はげんきプラザの職員を中心に先生方にも協力をいただきながら実施することで、より質の高い教育活動を展開することができます。学校の実態に応じて調整し、ぜひ活用ください。



何を学ぶか 「木材の加工について学ぼう」

材料加工を行うための基礎的な理解を図るとともに、薪づくり体験、間伐体験を通して学習課題を見出し、よりよい暮らしの実現や持続可能な社会について考えることで、材料と加工の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付けることができるようにする。



どのように学ぶか

課題の把握・設定
動機づけ

課題の情報収集
追求・解決

整理・分析
まとめ
表現

事前学習(学校・8時間)

技術

- ✓ 材料の特性・性質について知る
- ✓ 材料に適した加工方法について知る
- ✓ 暮らしの課題を発見し、木工棚の設計、計画、製作を行う
- ✓ 木材建築の例や国産木材の活用のされ方について調べる

体験学習(施設・5時間)

技術

- ✓ 薪づくりを通して、木材の特性や性質について理解する
- ✓ 間伐体験で木材加工の過程や林業について理解する
- ✓ フィールドワークで良質な建築材となる条件を考える

事後学習(学校・4時間)

技術

- ✓ 体験を通して学習したことをまとめ、製作品の修正作業に反映する
- ✓ 実生活との関係を踏まえて、持続可能な林業の未来について自分なりの実践策を考える

道徳(自然愛護)

- ✓ 持続可能な社会の構築へ向けて、自然の恩恵と社会活動の関係について考える

何ができるようになるか

育成する資質・能力

知識
及び
技能

- ✓ 生活や社会で利用されている材料と加工の技術について理解し、それらに係る技能を身に付けること
- ✓ 森林資源と林業の役割について、暮らしとの関連を踏まえて理解すること

思考力
判断力
表現力等

- ✓ 材料の選択や成形の方法等を構想して、設計を具体化することができるようにすること
- ✓ 体験を通じて、製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えることができるようにすること

学びに
向かう力
人間性等

- ✓ 材料と加工の技術について主体的に学習しようとする態度や、よりよい暮らしの実現と持続可能な社会の構築に向けて、主体的に問題を解決しようとする態度を養うこと



体験活動プログラム実施校 先生・生徒からの声

教科と関連させた宿泊プログラムは、カリキュラム・マネジメントの面からも活用する価値があった。げんきプラザ職員のコーディネートは、宿泊学習で今後も活用したい。(先生)

林業に従事している専門の講師指導の下の間伐体験や、たくさんの工具や材料にふれる機会など、リアルな迫力や臨場感に触れた体験が、生徒の印象に強く残る学習となった。(先生)

学習した知識と、実体験が結びついたことで、日常生活の様々な場面で「技術」が活用されていることを生徒が考えられるようになった。SDGsの視点に学習を深めやすい内容だった。(先生)

まっすぐな木材は人が手をかけて作り出していることを初めて知った。育て方によって木材の品質がどう変わるのかも調べたいと思った。(生徒)

色々な工具でたくさんの自然(木、枝、葉)を加工したり、ちぎったり、嗅いだりして、班で協力して課題を解決したことが楽しかった。木を倒せた瞬間はものすごく達成感があった。(生徒)

宿泊学習を終えて、近所の山や家の柱について調べてみた。自然(木材)と人間の技術によって生活が支えられていることがわかったので、資源の活用と環境保全のバランスを大切にしていきたい。(生徒)

何を学ぶか 「体験活動を通じて、よりよい人間関係を築こう」

様々な体験活動を通じて、生徒が互いに協働しながら「よりよい人間関係」を形成しようとするとともに、これまで各教科等で学んできた知識や技能、見方・考え方を総合的に働かせて、主体的に課題解決を図ることができるようにする。



どのように学ぶか

課題の設定

情報の収集

整理・分析
まとめ
表現

事前学習(学校・2時間)

体験学習(出前授業・6時間)

事後学習(学校・1時間)

総合

- ✓ グループ編成や野外炊事での役割分担の決定

理科

- ✓ これまでに学んだ知識を生かして、効果的な火付けの方法を想起

総合

- ✓ ビーイング: グループ目標の設定、個人やグループによる達成度の振り返り
- ✓ 人間関係づくりプログラム: アクティビティの実践、よりよい人間関係形成のための資質を習得

理科

- ✓ 野外炊事体験: 災害時にも応用できる野外炊飯の実施と試食

道徳(友情・信頼)

- ✓ よりよい人間関係を築くために、体験活動や日々の学校生活を通じて学んだ他者との関わりについて考える



※ビーイング: 思いの視覚化

何ができるようになるか

育成する資質・能力

- 知識及び技能
- 思考力判断力表現力等
- 学びに向かう力人間性等

- ✓ よりよい人間関係を形成するために他者と協働して取り組むことの意義を理解できる
- ✓ 野外炊事体験における効果的な火付けの方法を身に付ける
- ✓ 集団内で協議して合意形成を図り、よりよい方向性を見出して課題解決を図ることができる
- ✓ 他者の考えや意見を肯定的に捉え、尊重することで、よりよい人間関係を形成しようとしている



体験活動プログラム実施校 先生・生徒からの声

ビーイングの振り返りで「仲間に敵しいことを言ってしまった」という記述がありました。自身の行動を客観視し、自ら改善しようとする良いきっかけとなりました。(先生)

十分な準備をして体験活動を行うことはとても良いことだと改めて感じました。生徒の発達段階に応じた内容を行うことで、主体的・対話的で深い学びにつながると思います。(先生)

事後の道徳授業において、生徒が「相手のことを考えて発言すること」や「マイナスな言葉ではなくプラスの言葉を使う」ことを挙げており、相手のよさに気づき認める視点が芽生えたと感じました。(先生)

目標のとおり、みんなで協力して野外炊事体験を行うことができました。初めて体験したので不安もあったけれど、仲間と一緒にできたので良かったです。(生徒)

周りのみんなと協力して作戦を立てたり助け合ったりしながらアクティビティに取り組むことができ、仲を深めることができたと思います。(生徒)

上手くできない人がいたとき、実際に「こうやるんだよ」とやってみせたり、コツを言い合ったりして、協力することができました。今まであまり話せなかった人とも話げできました。(生徒)

指導案・ワークシートのダウンロードができます！

本試行事業の「学習指導案・ワークシート等」を公開しています。

また、ここで紹介したプログラム以外にも、げんきプラザのコンテンツを生かした授業展開が可能ですので、ぜひお問い合わせください。



指導案・ワークシート等は
以下のURLまたは右のQRコードからご覧ください

大滝げんきプラザ

<https://genki.spec.ed.jp/ootaki/taikatsususuikyou>

加須げんきプラザ

<https://genki.spec.ed.jp/kazo/taisuiyou kazo>



大滝げんきプラザ



加須げんきプラザ

埼玉県体験活動推進協議会について

埼玉県教育委員会では、体験活動推進協議会を設置し、げんきプラザを利用した体験活動が、児童生徒の健全育成につながる効果的な体験活動の在り方や、各教科等へ関連付けたプログラムの開発について検討を行ってまいりました。

各学校の実態に合わせて、げんきプラザの多様な資源を生かした体験学習が実施されることにより、「主体的・対話的で深い学び」や「カリキュラム・マネジメント」が実現されることを願っております。

プログラム開発にあたりご協力いただきました協力校の皆様、また、体験活動推進協議会の各委員に厚くお礼申し上げます。

県教育局市町村支援部生涯学習推進課 課長 佐藤 直樹

埼玉県体験活動推進協議会各委員から(五十音順)

学校で知識や技能を学んでも、それらを実生活の中で使いこなすことができなければ、生きる力を身につけたとはいえません。生きる力を身につけるためには、各教科等での学びを実際の場面で活用して実践する機会をもつことが大切です。げんきプラザには、児童・生徒の生きる力をはぐむ質の高い体験活動が用意されていますので、ぜひご活用ください。

國學院大學人間開発学部 准教授
青木 康太郎 氏

子供たちの学びは、実感を伴った様々な体験を通して、生きて働く知識や力になります。子供たちの豊かな人間性や社会性を育み、健やかな成長を後押しする質の高い体験プログラムが「げんきプラザ」にはあります。未来の創り手である子供たちの深い学びの実現に向け、様々な機会に「げんきプラザ」を活用いただくことを期待しています。

県教育局市町村支援部義務教育指導課
教育指導幹 阿部 弘之 氏

ここにお示したモデルプランは、げんきプラザが提供する体験活動を学校が利用するにあたり、教科等との関連を考える参考となるものです。出前講座での実施など、学校の実情に応じた体験活動の提供が可能ですので、どんなことでも遠慮なくご相談ください。効果的な体験活動により児童・生徒は大きく変容します。まずは一度げんきプラザをご利用ください。

県立加須げんきプラザ 所長
上松 寿明 氏



げんきプラザで行われる体験活動は、社会教育・学校教育の垣根を越えて、学びを相互に補完し合い、主体的・対話的で深い学びにも寄与するところが大きいものです。そして、げんきプラザには、本リーフレットのような学びをカスタマイズできる人材がおりますので、げんきプラザで体験活動を児童・生徒に経験させてあげてください。

県立大滝げんきプラザ 所長
江森 貴文 氏

「体験」は、身体性を伴います。体系的な学びの「頭」の知識が、「心」と「身体」を使うことで、言葉通り血肉になっていきます。社会教育施設等様々な場での体験は、前後のつながりや学校での学びとの関連性・位置づけをきちんとしていくことで、その効果は大きくなります。本プログラムは、学校現場の助けになるものです。

公益財団法人キープ協会
環境教育事業部長 鳥屋尾 健 氏

